

テレビの進化を支えるコア技術とクラウドサービス

Core Technologies and Cloud Services Supporting Evolution of TVs

巻頭言

液晶テレビ レグザの進化

Evolution of REGZA LCD TVs

1930年代に欧州で世界初のテレビ定例放送が始まり、わが国で1953年に初めて白黒テレビ放送が開始されて以来、テレビは様々な形で進化を続けてきました。特に近年は、デジタル放送や、フラットパネル、インターネット動画配信、クラウドサービス、高精細4K (3,840×2,160画素) テレビなど次々と新しい技術や商品が導入され、テレビの機能、性能、デザイン、及びサービスは大きな変化を遂げました。今やテレビは最先端のスマート機器に生まれ変わり、更なる進化を続けています。

東芝は1960年のカラーテレビ発売から2016年で57年目を迎えました。2006年に導入したレグザブランドの10周年にもあたります。その間、レグザの代名詞であるZシリーズや大きな注目を集めたフラグシップモデルのCELLレグザなど様々な商品を投入するとともに、独自のコア技術を開発し、深耕してきました。超解像処理、広色域復元、及びバックライト制御などの高画質化技術や、過去に放送された番組をいつでも好きなときに選んで見られる“タイムシフトマシン”機能などの録画応用技術、テレビ番組でもインターネット動画配信でもシームレスに簡単にコンテンツにアクセスできる“みるコレ”サービスなどのクラウド応用技術といった、数多くの独自技術がレグザに搭載され、好評を博しています。

昨今テレビはコモディティ化したと言われ、海外の後発メーカーなどが大きく勢力を伸ばしているのは事実です。しかし、HDR (High Dynamic Range) 及び4K・8K (7,680×4,320画素) 放送に代表される新しい映像技術や、極めて薄く折曲げも可能な有機EL (OLED: Organic Light-Emitting Diode) パネルに代表される斬新なデバイスが次々と登場し、まだまだ大きな進化の余地を残しています。

当社は究極の映像体験や新しい視聴スタイルの提案を目指して、これら新技術や独自コア技術を盛り込んだ新製品の開発に取り組んでいます。同時に、累計販売台数が100万台に達した“レグザクラウドサービス「TimeOn」”対応のテレビを通し、より進化したクラウドサービスやクラウドビジネスの展開も進めています。更に、これらの技術をベースにした新分野の製品やサービスの開発にも積極的に取り組み、“モノ+こと”を実現するホームIoT (Internet of Things) などへの展開を目指しています。

この特集では、最新のレグザとレグザを支える映像、音響、及びクラウド技術について紹介します。テレビの進化はもちろんのこと、新しいコンセプトの製品やサービスの創出も見据えた取組みの一端をご理解いただければ幸いです。

近江 邦夫
OMI Kunio